

会からの提案

新しいまちづくりの会では、平成23年10月にまちづくりの観点からの学校に望まれることを提案書にとりまとめ提出しました。提案は新しい学校が地域の連携やコミュニティの拠り所となり、池袋本町全体の災害時対応の拠点となるように設計に配慮してほしいという内容です。具体的には、次の提案をしました。

- ①施設の開放・地域イベント等での活用
- ②境界部分を工夫して親しまれる施設づくり
- ③池袋本町や学校の記憶・資源を残す
- ④災害時の使い方を想定した施設づくり
- ⑤防災機能の強化、事前の備え
- ⑥周辺道路の拡幅、交差点改良、避難者のアクセス確保

この提案を盛り込んで、小中連携校の検討会である、かみいけ♥いけほんつながり隊では小中連携校建設に関する提言書を取りまとめ、豊島区長に提言しました。提言に沿って施設の設計が行われ、会からの提案も多くが取り入れられています。

2学期から新校舎開校

池袋本町小中連携校の工事は順調に進んでおり、池袋中学校及び池袋本町小学校は平成28年2学期から新校舎で同時開校の予定です。現池袋中学校校舎は、中学校引越し後に解体工事及び校庭整備工事を予定しています。解体に先立ち校舎等の外壁仕上げ材のアスベスト含有調査をしたところ、一部の外壁塗装材に微量ながら規定値以上のアスベストが含まれていることが判明しました。このアスベストはセメントに練りこまれており、日常的には飛散性がないものの、外壁を解体する際は、法令等に沿って撤去処分することが義務づけられています。このため、校舎解体工事に相当の期間を要するものと想定され、校舎解体工事及び校庭整備工事の期間を延長することとなりました。

施設の開放・地域イベント等での活用

●地域開放する体育館や多目的室などを1階に配置して、地域の方も使いやすくしています。

境界部分を工夫して親しまれる施設づくり

●校舎北側が学校の正面となり、道路からの見え方や施設の工夫により、地域と学校の交流を生み出す工夫が行われています。

池袋本町や学校の記憶・資源を残す

●校舎北側の道を「桜の森」にして、豊島区の歴史と伝統を継承していきます。

災害時の使い方を想定した施設づくり

- 災害時に避難所となる、体育館などの施設や災害対策本部となる多目的室を1階に設置しています。
- 災害時でも授業への影響が少ない工夫をしています。

防災機能の強化、事前の備え

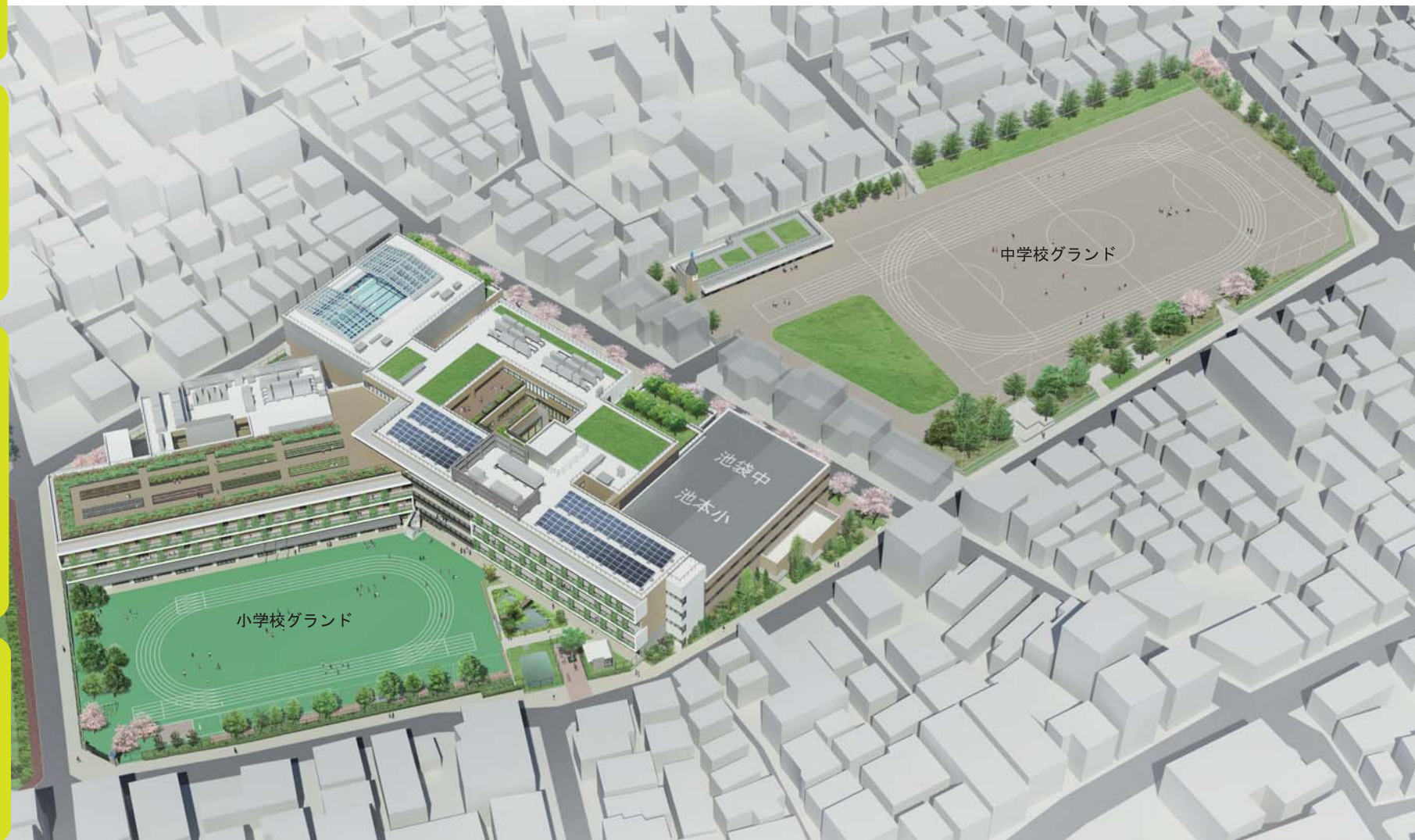
- 以前からある井戸ひろばを残すと共に、プールの水、地下貯水槽や雨水貯留槽などの防災に役立つ水を確保しています。
- マンホールトイレやかまどベンチなど防災施設を整備しています。
- 非常用発電、ソーラー発電などの非常時の電源を確保しています。

周辺道路の拡幅、交差点改良、避難者のアクセス確保

●道路に面して歩道状空地や小広場を設け、歩きやすい道路とし、避難もしやすくしています。



校舎南側と万葉の門



校舎北側の桜の森と桜門

防災施設用地（2000㎡）のその後

池袋本町一丁目の防災施設用地を高齢者施設にできないかという区からの提案に対して、新しいまちづくりの会では検討を行いました。

高齢者施設は、豊島区では必要な施設です。また救援センターとなる小中連携校に隣接して福祉救援センターができることは地域の防災にとっても役立つ施設となります。そして、普段

からこの施設が地域のコミュニティにも役立つことが期待されます。このような観点から新しいまちづくりの会では、高齢者施設の立地を了承しました。

事業者と協議を行い、地域の方々も使えるカフェや地域交流施設を整備したいとの提案があり、これも了承しました。